
入院してみた

アデム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

入院してみた

【Nコード】

N7907U

【作者名】

アテム

【あらすじ】

入院してみたので書いてみました

基本的に出会った愉快的同室の方とドSな看護師さんたちの物語です。

1 三日目の朝（前書き）

三日目からのスタートです。

1 三日目の朝

入院してみた

1 3日目 朝

本日の思考テーマ

世界平和と血糖値の関係について

世界平和が平和になるにはまずは世界中が食料で満たされ空けければならない

断食と言うヤツは精神を確実に蝕んでいくのだ

回りもみんな仲良く食べれないうちはまだいいだろう

だが、あるときそいつは気付いてしまうのだ

満たされていないのは自分だけだってことに

自分だけが満たされず、他が満たされていることを知ったらそいつはどうなるだろうか？

たぶん、どこにも行きようのない何かが自分の中で渦巻いていくだろう。最初の頃は自分の中にある理性ってやつがそいつを必死になつて押さえつけようとする

だが、悲しいかな人間の力ってのはそんなに強くは出来ていないいずれ、爆発するか自分の中に溜め込んだままいずれ……

飢えと貧困が無くならない限り、この世界に平和は訪れない

とにかく、世界に必要なのは大型農場施設であり、兵役を義務とするのではなく農役を義務とすることを国際法で制定せねば！！

・・・っておい

なんちゅう妄想してるんだ

ああ・・・だめだ

まったく考えがまとまらない

第一、テーマの血糖値はどこに行った？

閑話休題

そんな具合に思考がまったくまとまらない今日この頃

「はらへった・・・」

不自由な左手を、さすりながら何度呟いたか分からないセリフを口にした。それにしてもこの点滴ってヤツは何時終わるんだろつか？針を刺している左腕が痛い加減痛くなってきたんだが・・・

一滴、一滴ってどこかの化粧品メーカーか？

ふと気まぐれにここ数日で顔なじみになった看護婦・・・否看護師さんに聞いてみた

『この、点滴ってヤツは口から吸っても大丈夫なのか？』

ちなみにその答えは

『特に問題ないけど死ぬほど不味いよ』とのこと

飲んだことあるのかつと突っ込み返す気力もなく、ベッドに倒れこんだのは何時のことだったか……

そっぴや昨日のことだ

いや、本当に人間は腹が減っていると時間の流れるのが無駄に長い特にやることがないときは特にそうだと・に・か・く、暇だ

それが、まだ始まって間もない闘病生活で得た経験だった

この期間にたまっていた小説でも読めば少しは暇を潰せるんじゃないか？

ラッキー！！

なんて考えの下、マンガ、小説あわせて十数冊を持ち込んでいる

しかし……重要なミスに気付く

まったく内容が頭に入ってこないのだ

2日目あたりに気付いたことだが小説なんかは文字を文字として認識できないので内容をまったく理解でない

マンガにおいては絵を追うだけの代物になっている。そう、まさに声も音も無い映画を見ている気分だ

ちなみにそんなモノは見たこともなく、これからも見る機会がそうそうないと思うのでこの例えが適切であるかどうかなんてしらないがね

それにしても腹減った

人間の基礎代謝は2600kcalらしい（成人男子の場合）

ちなみにこの点滴（抗生物質×2、ビタミン成分入りの組織なんかか剤×3）で得られるカロリーは1000kcal

・・・っておい

まったく持つて足りてないじゃないか！

不足分のカロリーはどうすんだよ！！

俺死んじやうよ！

例によって看護師さんによると

『入院中は1500キロくらいで十分なのよ。運動も必要最小限だしね。それに、細胞自体は薬で生かされてるから死なないわ。まあ強制ダイエットと思えば？』

思えば？じゃないと思う

人生で何度目かの本気で殺意に目覚めた瞬間である

それでも、足りていない500キロカロリー

消えた500キロカロリー

病室に残る謎の血痕

そして、病室に響く泣き声！

事件は迷宮入りか！？

そう思われたその時！

・・・ってまた妄想と現実がごっちゃになってきた

そうだ、もっとまともなことを考えてみよう

なぜ、自分はここにいるのか

哲学的な答えではない

過去の自称から結びつく結果だけを思い出してみよう

たぶん、それが一番健康的な方法だ

1 三日目の朝（後書き）

ドSな人のドSっぷりはまだまだこれからです

2 初日 前篇（前書き）

とりあえず、初日の話です。

長くなりそうだったので、前後に分けました。

2 初日 前篇

2 1日目 ?

下痢が止まらない

一発目から本当にすみません

たぶん、食あたりだろう

そんな考えで出すもの出してから整腸剤と正露丸を服用して二日目
まったくその効果は見られない
むしろひどくなっている気がする

ああ・・・それにしても腹が痛い

本当に効いてるのか？

やっぱり、ラッ のマークの方がいいのかね？
それ以外はまがい物なのではないか？

なんて、くだらないことを考えている余裕はその時の僕にはなかった

だけど「その昔は征露丸なんて言われて作られた薬だ。あの極寒の
大地に挑んだのだ

！！効くはずさ」

つてことは、考えていたことが後日のメール履歴で発覚する

その名の気概を見せてくれと再び正露丸を服用

例え、そのマークが ヅパでなくとも！

ちなみに僕が正露丸を信賴しているのには理由がある

とくに病氣らしい病氣はしたことがなかった僕だが、子供のころからお腹だけは強くはなかった。その割には、冷たいものを好んで食べる。また、田舎育ちだったせいか、野草や木の実といったものをおやつ代わりに食べていた。その中には、もちろん腹痛を伴うものもあったわけで……

だからというわけではないが、ランドセルに正露丸を常備するといふ変な小学生だった

閑話休題

それにしても吐き気もしてきた

ちょこつと熱っぽい

これはもしかして食中毒の疑いあり？

とりあえず抗生剤の投与にきりかえてみた

一般家庭に抗生物質が転がっている

それも変な話ではあるが気にせず、スルーしてほしい
昔から我が家には変なものが転がっているのだ

そここうしているうちに血便が出た

・・・・・・・・・・今までの病歴にない表情に少しばかり戸惑った

「男は血に慣れない生物だ」

とか聞いたことがあった

赤茶色に染まった便器に染まった便器を見て不意に何かがこみ上げ
てきそう・・・

今の今までそんなことはないさと馬鹿にしていたものだがどうやら
本当らしい。それとも、下半身が産まれたままの姿に近いと本能的
な恐怖に繋がるのか？どっちにせよ、下半身丸出しで狭いうえに暑
い実家のトイレで考えることじゃないことは確かだ

流したうえで便器に座りしばらく考える

どうしてこんなことになった？

ここ最近、無茶な生活を送っていた代償
それが、一番初めに思ったことだった

3月、花見とかで調子こいて開けた日本酒の本数は数知れず

4月、新歓とかのノリでいろいろ体張った

後に「平成生まれに負けるか」

などとほざいていたことがメールで判明
履歴って怖い

具体的には馬鹿みたいデツカイ、パフェを飲んり、アホみたいな量の汁粉を丸呑みした

ちなみにこれは名古屋の某有名喫茶店での話だったりする

5月、何かと毎週忙しく食事のほとんどが外食に移行
とくに近所の定食屋で働いていた留学生が可愛くて、毎日のように通ってみたいだ

ちなみにストーカー的なことはしていない

そんな生活を4カ月

まあ、体のどつかがおかしくなっていないほうが異常だよな……
うんた

すでに、若くないって自覚せにやらんはずだしな

ああ……くそつたれ

無茶苦茶、痛いな

ずっと放置していた椎間板減ヘルニアが爆発したなった。
そんな時に体験した痛さが笑うしか痛さだった
そして今度は冷や汗しか出ない痛さだ

自分の痛みに対する鈍感さが嫌になる
昔っから擦り傷、切り傷の類は放つといったタイプだ

ちなみに一度、左親指が骨折した状態で野球の試合に出たことがあった

「何か痛いな」

そんな感じで試合終了してみた9回の裏にグローブを外そうとしたらあまりにも腫れあがっていて、抜くのにならう時間がかったなんてエピソードがある

どうやら、多少の痛みは快感と覚える変な性癖があったらしい。確かに、最近自分はライトMだったことは自覚し始めたが……。今回も症状事態は昨日から出ていた。しかし、それを気合いと根性といふにちよこつとばかり残っている若さでカバーし旧友たちと飲みに出たつてくると同時にトイレに駆け込み、大事には至らなかった

とりあえず、素人判断には手に負えん

医者に行こう

って今、お盆だよな

2 初日 前篇（後書き）

次回は、ドSな看護師さんが出てきます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7907u/>

入院してみた

2011年10月9日10時55分発行